

「伝わるグラフ」は

石川

実乃理

何が違う?

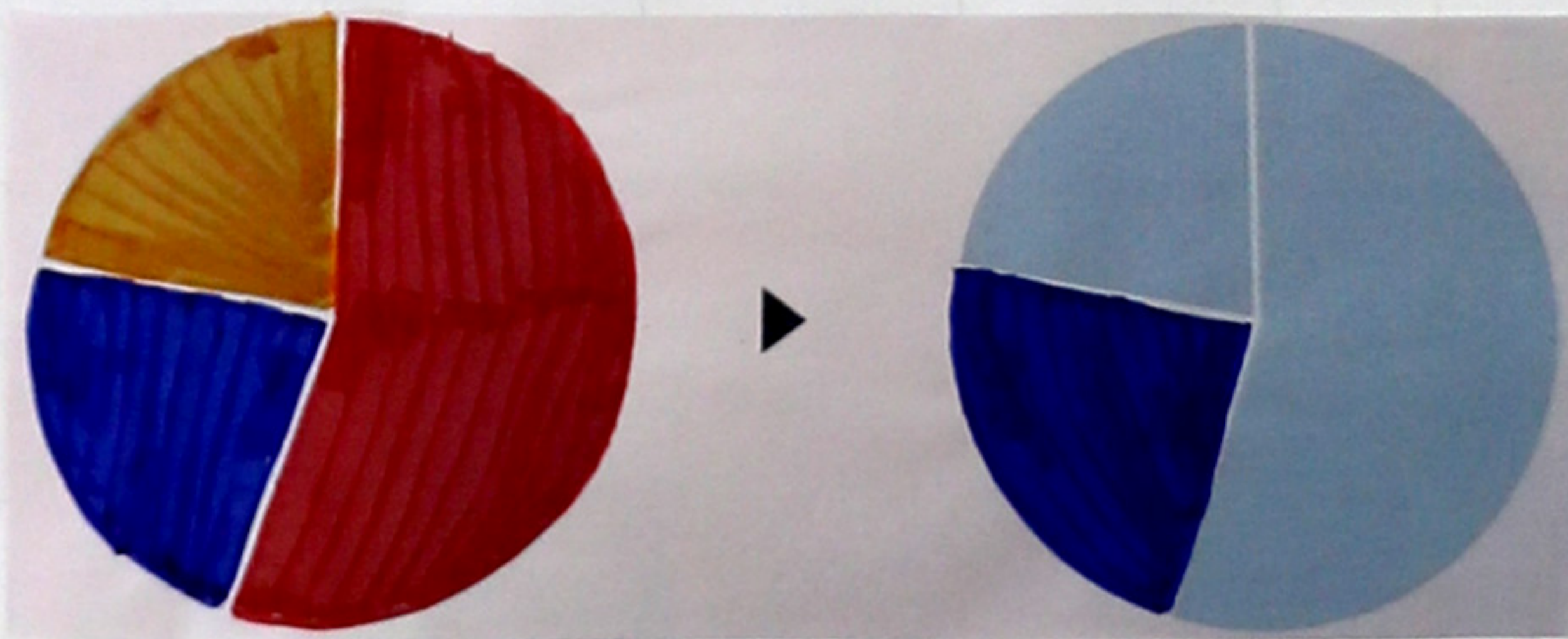
1. 研究の目的

コミュニティサイエンスアカデミアの第7回で、グラフの表し方や使い方によっては誤解を招いてしまうことを知りました。分かりやすく、伝わりやすいグラフは伝わりづらいグラフと何が違うのか、疑問を持ったからです。

3. 結果

① 「強調したいこと」を決める

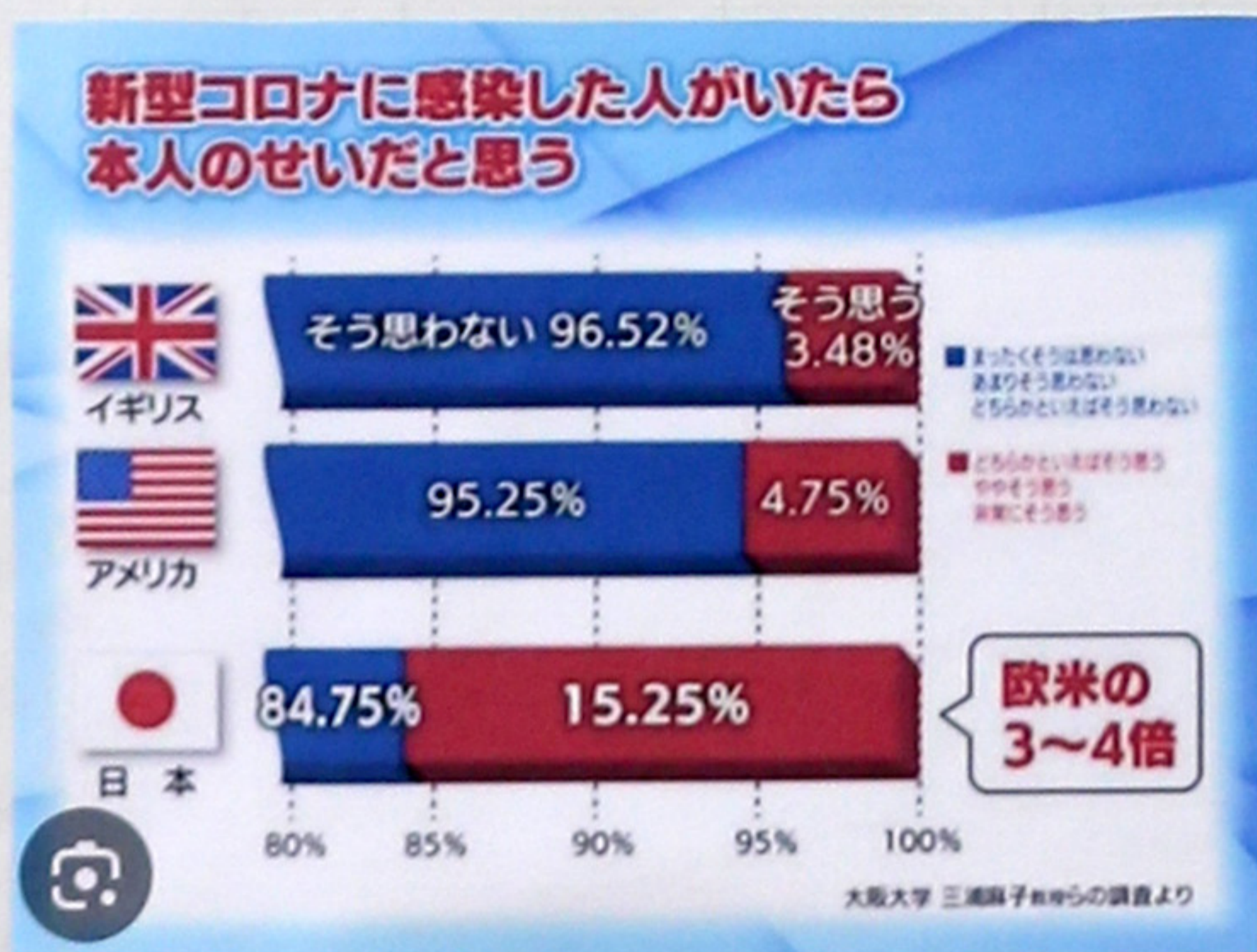
例)



目も疲れる...

カラフルなグラフは、きれいだけど「どこが大事なのか」が分かりづらい。⇒ 1つのデータに注目してほしいなら、少ない色でまとめる。

③ 「0」を見せる



「0」から始めないグラフは小さな差を大きく見せることができる。しかし、賛否両論であり誤った情報を伝えやすい。「0」から始めるグラフの方が信頼してもらえる。

2. 研究方法

① 本で調べる

「なるほどデザイン」

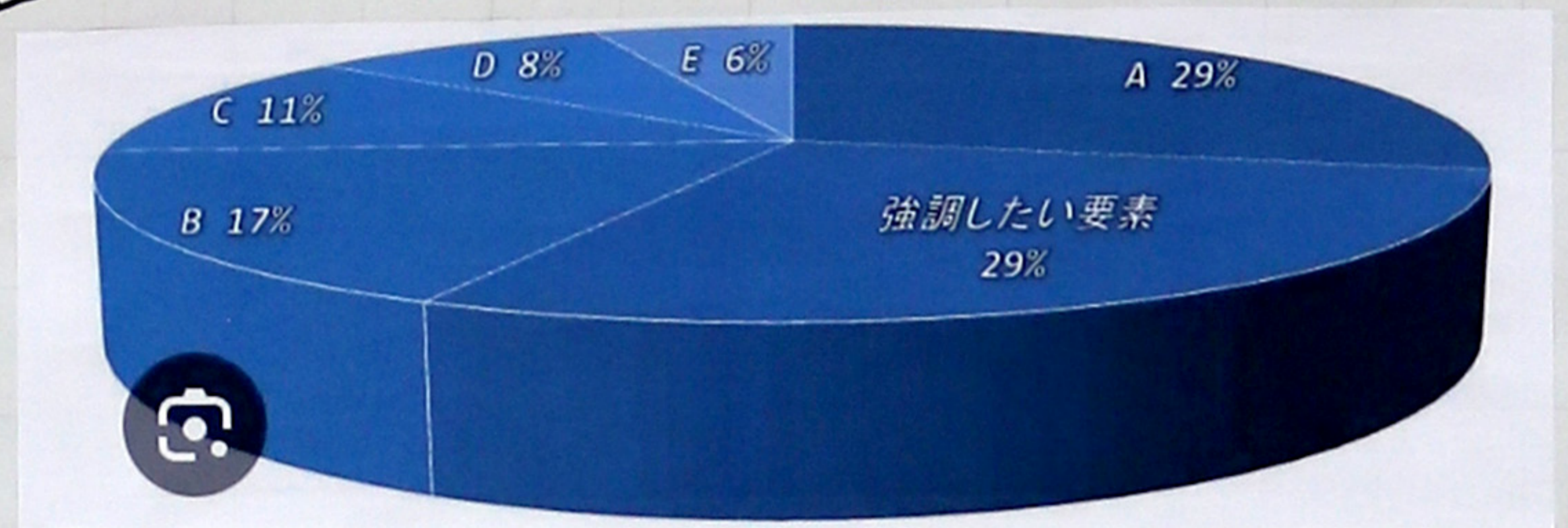
(筒井美希著)

② インターネットで調べる

URL: <https://nulljapan.jp/presen-graph/>

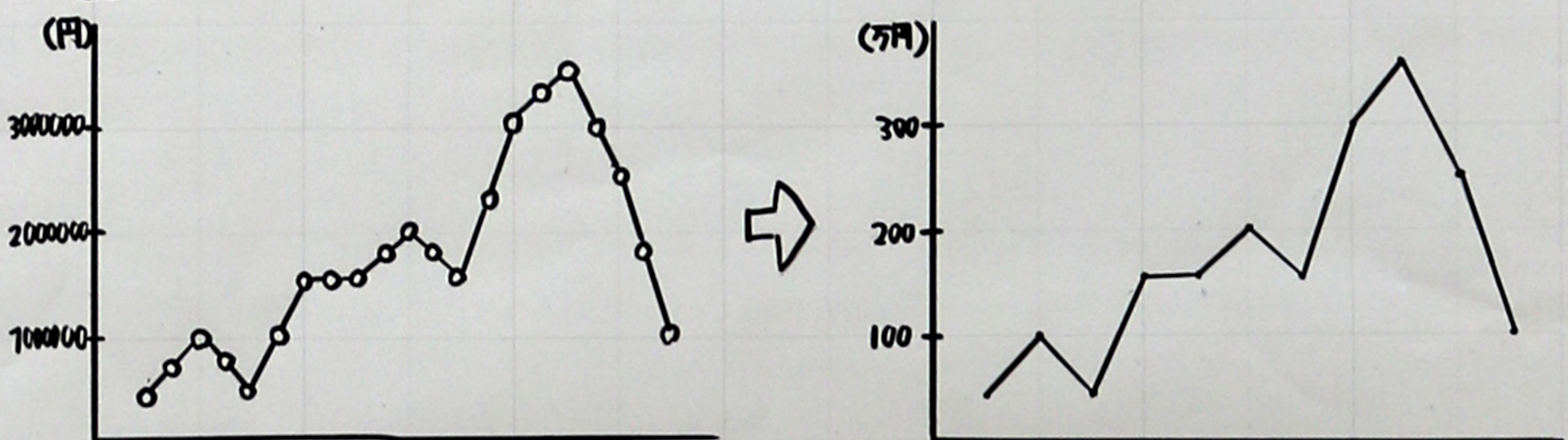
「プレゼン資料のグラフを見やすく作る方法」

② 立体表現に注意



同じ割合なのに、大きく見えてしまうものも。なるべく平面にすると良い。

④ 見やすくシンプルに



数量が多い場合は単位を大きくしたり、折れ線グラフの点が多い時は減らしたり、無くすと見やすいグラフに。

4. まとめ

- 。「何を伝えたいか」をはっきりさせ、グラフを見やすくすることが大切。
- 。グラフは分かりやすいけれど、分かりやすいからこそ、詐欺グラフなどの嘘のグラフもある。気をつけよう。